

武蔵工業大学後援会誌

Mi-com

No.

12

1995-7



アラソフエス
ARANJUEZ—スペイン王家の別荘地、
ロドリゴのアランフェス協奏曲…。

そんな高貴な響きを船名にもつ本学のクルーザーを操るのは、
全国でもその存在が珍しい体育会ヨット部。

自慢のARANJUEZⅢ号は伊豆方面から八丈島まで縦横無尽の頼もしさ。
時は巡り、現代のロビンソン・クルーソーたちをのせて…(京急マリーナにて)

ごあいさつ



武蔵工業大学後援会
会長 飯田進也



昨年の6月会長に就任してから、約1年が経過いたしました。本後援会は、昭和63年12月に発足以来、7年目を迎えております。7年に亘る期間中、役員諸氏、ご父母の皆様、また、大学側の学長先生はじめ多くの教職員の方々のご協力により、立派な後援会に発展して参りました。

本会の目的は、武蔵工業大学の教育方針に則り、1.父母と教職員との連携を密にする。2.子弟の修学及び学生生活への援助。3.大学の発展に寄与。4.会員相互の親睦等があります。現在の会員数は4,124名で、在学生の約80%の方々の加入を頂いております。活動内容の主なものを挙げて見ますと、

1. 学生課外活動への援助
2. 学生生活の指導
3. 緊急奨学金制度
4. 大学と父母との連絡会の開催
5. 会誌の発行

等々があります。とくに、家計事情の急変した学生への奨学金制度は、昨年度より新設されたものであります。今後、さらに充実した後援会組織にしていきたいと考えております。

科学技術立国を掲げている日本において、社会が理工系学生に求めている資質は、国際的視野に立った独創的な思考と探求心及び協調的な業務能力にあると思います。そのためには、基礎的な専門知識の修得のみでなく、課外活動を通じて学び取る人間性の陶冶にあると思います。

後援会としては、上記のような視点に立って、ご子弟が悔いのない有意義な学生生活が送れるよう、大学とともに側面より援助していきたいと思っております。そのためにも本会を更に充実、発展させていくことが肝要です。今後ともご父母の皆様方のご協力、ご援助を賜りますようお願い申し上げます。

平成7年度 評議員会が開催される

武蔵工業大学後援会の平成7年度評議員会が平成7年5月27日(土)午後2時45分から大学の3号館311教室において役員、評議員69名(委任出席13名)の出席のもとに開催されました。

評議員会は飯田進也会長の開会の挨拶で始まり、役員および今年度新しく評議員に就任された20名の方々が紹介された後、議事に入りました。議事は事務局から第1号議案から各議案ごとに提案説明され、その後、この説明にもとづいて審議され採決の結果、次の議案が原案の通り可決、承認されました。



▲挨拶をされる前学生部長 星野先生(中央)と飯田会長(左)、新学生部長 中添先生



▲審議風景

武蔵工業大学後援会 平成7年度 評議員会

平成7年5月27日(土)

武蔵工業大学 311教室

1. 開会の辞 ——飯田会長——

2. 報告事項

平成7年度後援会入会者数及び会員数について

3. 議事

- 第1号議案 平成6年度 事業報告について
- 第2号議案 平成6年度 決算報告について
- 第3号議案 平成7年度 事業計画案について
- 第4号議案 平成7年度 予算案について
- 第5号議案 平成7年度 役員候補者について
- 第6号議案 緊急奨学金規定の改定案について

4. その他

会務の処理に関する事項

5. 閉会の辞 ——相場副会長——



大学との懇談会



平成6年度 事業報告

(1) 事業

1. 正課外教育援助

- 「課外活動に対する補助制度」による援助は、73団体となった。

主な援助対象

- (1)学生団体連合会へ課外活動援助金として1,200万円を援助。
- (2)体育祭、水泳大会、'94ミュージック・フェスティバル、Mi-Techテニストーナメント、MIT祭等の学生行事に対して援助。
- (3)学生団体の責任者を対象とした「リーダーズ研修会」(平成6年12月)へ援助。
- (4)カヌー競技でオリンピックの強化指定選手に指定された星 栄介君(経営1年)に援助。
- 学生団体主催行事のスプリングフェスティバル'94の(新入生歓迎行事)への援助。
- 特許アイデア研究部主催で全学生を対象に行われたアイデア・コンクール「発明大作戦」に対して援助。(平成6年11月)
- 学生団体や学生グループによる、鳥人間コンテスト(航空研究会)、ソーラーバイシクルレース(機親会)、全日本ロボット相撲大会、およびエコノパワー自動車競技大会等の学外大会参加に対して援助。
- 学生部委員による学生団体の夏期合宿激励と、各団体へ合宿援助金の支給。(19団体)
- 留学生の新入生歓迎会、合宿研修会、見学会および卒業研修等の各種行事へ援助。
- 大学の課外活動賞(学長賞、学生部長賞、課外活動奨励賞)のうち課外活動奨励賞の副賞(盾)に本会の名を刻して贈呈。
- 在学中、課外活動に貢献した学生を選考し、22名に「後援会長賞」を授与し、表彰する。
- ハンドボール部の東日本学生選手権出場に対し、応援費用等を援助。(平成6年8月)

2. 「大学と父母との連絡会」への援助と協力

- 全国26会場で開催された「大学と父母との連絡会」の費用の一部(334万円)を負担。
- 東京会場において、飯田会長が後援会を代表して挨拶。地方においては評議員の方々に協力をいただいた。

3. 大学行事への協力

- 平成6年度入学式に宮崎前会長が来賓として出席し祝辞。(平成6年4月)
- 学校法人五島育英会傘下の後援会合同懇談会に会長、副会長および会計監査が出席し、飯田会

長が挨拶。(平成6年6月)

- 防災教室に参加の学生に援助。(平成6年10月)
- 昨年募集した大学周辺の散歩道コースの案内が3種類完成し、学内に配布。(平成6年12月)
- 平成6年度学位授与式に飯田会長が来賓として出席し、「後援会長賞」の授与および祝辞。(平成7年3月)

4. 学生厚生援助

- 学生の情操教育の一助として五島記念館の1階に寄贈した彫刻「序曲」が設置される。
- 学生団体の上部統括団体(学団連、文連、体育会)へ視聴覚映像機器として、液晶ワイド投影機装置一式を各団体に援助。(平成7年3月)

5. 会誌の発行

- 後援会の会誌「Mi-Com」10号(平成6年7月)、11号(平成6年12月)を刊行し、会員へ送付。

6. マイテック・フレッシュマン・キャンプの援助

- 平成6年4月20日、21日の2日間、新入生を対象とした研修行事に対して援助。

7. 後援会緊急奨学金制度の実施

- 今年度より会員の家計の急変により学業の継続が困難な子弟に対して授業料の半額分を貸与する奨学金制度がスタートし、5名に271万円を貸与。(平成6年6月、12月)

8. 入会案内等の発送

- 平成6年度入学者の内未入会の父母宛に再度入会案内を送付。(平成6年7月)
- 平成7年度入学予定者(推薦および自己推薦)の父母宛に入会案内。(平成7年2月)
- 平成7年度入学予定者(A方式、付属、B方式)の父母宛に入会案内。(平成7年3月)

9. その他

- 校歌のCDを配布
大学の歴史(英文)と校歌を覚えてもらうため学生団体(放送会、吹奏楽団、マンドリンクラブ、グリークラブ)と教職員の協力を得て作成した校歌のコンパクトディスク(CD)を新入生へ配布する。(平成7年4月)
- 兵庫県南部地震の救援金として10万円を朝日新聞厚生文化事業団を通じて寄付。(平成7年2月)
- 後援会の事務担当者(アルバイト)の採用。(平成6年4月～平成7年3月)
- 大学へ「後援会長賞」の候補者の推薦依頼。

(2) 運 営

1. 理事会

平成6年5月14日(土)

- 平成6年度評議員会提出案件の審議。

平成6年11月5日(土)

- 平成6年度の(1)事業経過、(2)入会者数、(3)「大学と父母との連絡会」の結果に関する審議。
- 平成7年度の主要会議日程、役員候補者選考、入会案内書送付等に関する審議。なお当日は理事会終了後、顧問の古浜庄一学長のほか大学関係者との懇談会が行われた。

2. 評議員会

平成6年5月21日(土)

- 平成5年度の事業報告、決算報告および、平成6年度の事業計画案、予算案の審議。
- 平成6年度の役員選出、委嘱について。なお、当日は評議員会に先立って学内の見学会を行い、評議員会終了後、大学の教職員との懇談会を開催した。

3. 後援会の事務担当者(アルバイト)の採用

- 後援会の事務担当者として職員(アルバイト)を採用。(平成6年4月～平成7年3月)

4. 会計監査

平成7年4月22日(土)

- 今井、木下両会計監査により平成6年度の会計監査を実施。

平成7年度 後援会会員数

●工学部

平成7年4月28日現在

学年	機械 (名)	電気 電子 (名)	電子 通信 (名)	建築 (名)	土木 (名)	経営 (名)	合計 (名)
1年生	222	159	139	128	102	142	892
2年生	267	183	121	142	134	165	1,012
3年生	250	169	141	127	110	141	938
4年生	232	172	129	113	101	143	890
合 計	971	683	530	510	447	591	3,732

●大学院

専攻 課程	機械 (名)	生産 機械 (名)	電気 (名)	建築 (名)	土木 (名)	経営 (名)	原子力 (名)	合計 (名)
修士 (1,2年)	64	52	125	67	35	30	19	392
博士 (3,4,5年)	3	0	4	2	0	0	0	9

■平成6年度「後援会長賞」に22名を表彰

●受賞者一覧

平成6年度の「後援会長賞」の受賞者22名が去る3月20日挙行された学位授与式において表彰されました。

この賞は、在学中に課外活動において多大の功績があった卒業生を受賞するもので当日は飯田会長から代表者の大川雅充君に表彰状と副賞が手渡されました。



氏 名	出身高校	所属クラブ	進路先
石塚 剛(機 械)	県立 錦江湾	バレーボール部主将	㈱アイ・エイチ・アイプランテック
大川 雅充(機 械)	県立 横須賀	学生団体連合会執行委員長	武蔵工業大学大学院
川俣 貴義(機 械)	県立 佐野	ラグビー部主将	小倉クラッチ㈱
千葉 尚彦(機 械)	私立 錦城	水泳部主将	ホーチキ㈱
西畑 浩憲(機 械)	県立 田辺	航空研究会部長	武蔵工業大学大学院
三島潤一郎(機 械)	私立 芝	文化団体連合会本部長	武蔵工業大学大学院
山下 哲生(機 械)	県立 浜松北	洋弓部	武蔵工業大学大学院
岡田 卓也(電気電子)	県立 小金	卓球部主将	武蔵工業大学大学院
目黒 光彦(電気電子)	都立 白鷗	鉄道研究部部长	武蔵工業大学大学院
吉井 健一(電気電子)	県立 春日部	吹奏楽団団長	武蔵工業大学大学院
11河 康之(電子通信)	県立 宇都宮東	ソフトボール部主将	武蔵工業大学大学院
永易 稔丈(電子通信)	県立 新居浜西	ソフトテニス部主将	東京海上システム開発㈱
藤沢 貴紀(電子通信)	県立 秦野	剣道部主将	NTTエレクトロニクステクノロジ㈱
千野 保幸(建 築)	県立 甲府第一	ハンドボール部主将	武蔵工業大学大学院
矢澤 道昭(建 築)	県立 上鶴間	アメリカンフットボール部主将	五洋建設㈱
柳 正規(建 築)	県立 津西	体育会副会長	西松建設㈱
武居 寿明(土 木)	私立武蔵工業大学付属信州	硬式野球部	塩尻市役所
松村 昌広(土 木)	県立 榛原	特許アイデア研究部	静岡県庁
三浦由美子(土 木)	県立 大船	スキー部	㈱横浜コンサルティングセンター
加藤 宏幸(経 営)	私立 星稜	ワンダーフォーゲル部主将	武蔵工業大学大学院
金子 博昭(経 営)	県立 元石川	体育会会長	東芝物流㈱
高間 利治(経 営)	県立 丸岡	学生団体連合会副執行委員長	福井合繊㈱

平成6年度 決算書

平成6年4月1日～平成7年3月31日

科 目	平成6年度予算	平成6年度決算	差 異	備 考
(収 入 の 部)	(円)	(円)	(円)	
1. 会 費	48,350,000	50,450,000	△2,100,000	● 新入生、在学生
2. 雑 収 入	3,000,000	525,058	2,474,942	
3. 前 年 度 繰 越 金	37,598,909	37,598,909	0	
収入の合計	88,948,909	88,573,967	374,942	
(支 出 の 部)				
事業費	44,970,000	44,712,082	257,918	
4. 正課外教育援助費	27,700,000	26,466,792	1,233,208	
5. 父 母 連 絡 会 費	3,200,000	3,338,560	△138,560	● 父母との連絡会（全国26カ所）
6. 大 学 行 事 協 力 費	1,800,000	1,761,690	38,310	● 新入生歓迎行事への援助
7. 学 生 厚 生 援 助 費	3,000,000	3,118,840	△118,840	● 学生団体へ投影機一式
8. 奨 学 資 金 費	2,000,000	2,710,000	△710,000	● 後援会の奨学金の支給
9. 会 報 発 行 費	3,600,000	3,646,200	△46,200	● Mi-Com No.10・No.11
10. 新入生歓迎行事費	3,670,000	3,670,000	0	
運営費	7,500,000	6,986,628	513,372	
11. 事 務 費	2,000,000	1,387,435	612,565	● アルバイト代
12. 会 議 費	1,200,000	1,296,353	△96,353	● 役員会、評議員会
13. 印 刷 ・ 通 信 費	2,000,000	2,229,992	△229,992	● 通知、案内の郵送
14. 旅 費 ・ 交 通 費	1,300,000	968,500	331,500	● 地方評議員の旅費
15. 備 品 費	500,000	0	500,000	
16. 雑 費	500,000	1,104,348	△604,348	● 封筒の作成、謝礼、慶弔費他
予備費	500,000	100,000	400,000	● 兵庫地震義援金
特別会計	4,300,000	4,300,000	0	
17. 後援会基本積立	2,300,000	2,300,000	0	
18. 記念事業費積立	2,000,000	2,000,000	0	
19. 学生事故対策援助費積立	0	0	0	
20. 特別課外活動援助費積立	0	0	0	
小 計	57,270,000	56,098,710	1,171,290	
次年度繰越金	31,678,909	32,475,257	△796,348	
支出の合計	88,948,909	88,573,967	374,942	

●正課外教育援助費内訳

科 目	平成6年度予算	平成6年度決算	差 異	備 考
正課外教育援助費	27,700,000 ^(甲)	26,466,792 ^(甲)	1,233,208 ^(甲)	● 「課外活動に対する補助制度」(資料別添)の費用他
課外活動援助費	24,300,000	23,737,225	562,775	
(イ)学団連援助金	(12,000,000)	(12,000,000)	(0)	● 学団連執行委員会、体育会・文化団体連合会各部、MIT祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会
(ロ)一般援助金	(10,500,000)	(10,525,727)	(△25,727)	● 課外研究、対外活動、情報活動、環境向上活動、用具整備、特別企画、地域活動、学団連什器・備品購入
(ハ)学生行事援助金	(1,800,000)	(1,211,498)	(588,502)	● 体育祭、MIT祭、水泳大会、ソフトボール大会、公開企画、特別行事、Mi-Techテニストーナメント等
学 生 顕 彰 費	900,000	665,950	234,050	● 課外活動賞、後援会長賞等
学生生活指導援助費	2,500,000	2,063,617	△436,383	● リーダー教育、学生団体の顧問・技術指導者の合宿指導、留学生の交流指導、研修・見学指導

平成7年度 事業計画

(1) 事業

1. 正課外教育援助

学生の課外活動のより活性化をはかるため、学生団体および学生行事等に対して援助を行う。

(1) 課外活動援助

「課外活動に対する補助制度」による援助を行う。

○ 学生団体連合会への援助

(学団連執行委員会、体育会、文団連、MIT祭実行委員会、放送会、吹奏楽団、新聞会)

○ 一般援助

(課外研究、対外活動、環境向上活動、情報活動、用具整備、特別企画、地域活動、活動奨励等)

○ 学生行事への援助 (全学的行事)

MIT祭、体育祭、水泳大会、スプリングフェスティバル、ミュージック・フェスティバル、ソフトボール大会、Mi-Techテニストーナメント、公開企画、特別行事等に対する援助。

上記の援助は援助希望団体(個人)の申請にもとづき、大学学生部の意見を受けて決定される。

(2) 学生顕彰

- 課外活動賞の内、課外活動奨励賞の副賞を贈呈。
「後援会長賞」は課外活動に貢献のあった学生約20名を学位授与式において表彰し、副賞を贈呈。

(3) 学生生活指導

- ボランティア育成、リーダー教育、顧問・技術指導者の合宿指導、海外からの留学生の交流、学生団体の指導および研修等に対する援助。

2. 「大学と父母との連絡会」の開催

- 大学と共催し、全国各地において「大学と父母との連絡会」を開催する。今年度は東京を含め全国26ヶ所で開催する。東京会場は平成7年9月30日(土)予定。

3. 「役員、評議員と大学教職員との懇談会」の開催

- 平成7年5月27日(土)の評議員会の後、大学から学長、理事、主任教授、学生部委員、事務局管理職が出席。

4. 大学行事への協力

- 大学の主催する行事への協力。
- 大学で開催する学生、教職員対象の「文化講演会」等の行事への援助。

5. 学生厚生援助

- 学生の厚生施設に係わる援助。(9号館および学生利用施設)

6. 後援会緊急奨学金制度

- 会員の家計の急変により学業の継続が困難な子弟に対して、授業料相当額(全額または半額)を援助する奨学金制度を実施する。

7. 会報の発行

- 後援会の会報誌「Mi-Com」を年2回発行し、学内の動きを父母に連絡すると共に会員相互の親睦をはかる。

8. フレッシュマンキャンプ(新入生研修行事)への援助

- 毎年4月に実施の新入生対象のフレッシュマンキャンプへの援助。

(2) 運営

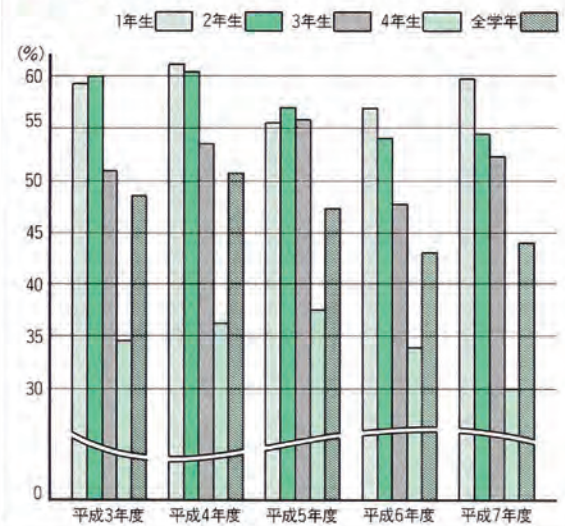
1. 会議

理事会 2回 平成7年5月13日(出)、
平成7年11月25日(土)予定

評議員会 1回 平成7年5月27日(土)

2. 後援会業務を担当する事務担当者(アルバイト)の採用

■ 過去5年間の在学生のクラブ加入率



平成7年度 予 算

平成7年5月8日

科 目	平成7年度予算	備 考
(収 入 の 部)	(円)	
1. 会 費	50,450,000	●新入生の加入者
2. 雑 収 入	1,670,000	●利息収入
3. 前 年 度 繰 越 金	32,475,257	
収 入 の 合 計	84,595,257	
(支 出 の 部)		
事 業 費	45,100,000	
4. 正 課 外 教 育 援 助 費	27,700,000	※下記を参照
5. 父 母 連 絡 会 費	3,400,000	●全国各地で年1回大学と共催
6. 大 学 行 事 協 力 費	1,800,000	●文化講演会、CDの製作ほか
7. 学 生 厚 生 援 助 費	3,000,000	●厚生設備等への援助(9、18号館等)
8. 奨 学 資 金 費	3,000,000	●緊急奨学金
9. 会 報 発 行 費	3,700,000	●後援会広報誌の作成(2回)
10. 新 入 生 研 修 行 事 費	2,500,000	●全学的に行うフレッシュマンキャンプに係る援助
運 営 費	7,900,000	
11. 事 務 費	2,000,000	●アルバイト代、事務委託費、消耗品費
12. 会 議 費	1,300,000	●役員会、評議員会
13. 印 刷 ・ 通 信 費	2,400,000	●通知、案内の郵送、印刷代
14. 旅 費 ・ 交 通 費	1,200,000	●地方評議員、役員の旅費
15. 備 品 費	500,000	●後援会関係の備品、什器
16. 雑 費	500,000	
予 備 費	500,000	
特 別 会 計	4,300,000	
17. 後 援 会 基 本 積 立	2,300,000	●将来の事業拡大のため
18. 記 念 事 業 費 積 立	2,000,000	●大学創立記念事業協力
19. 学 生 事 故 対 策 援 助 費 積 立	0	(学生事故対策として5百万まで積立完了)
20. 特 別 課 外 活 動 援 助 費 積 立	0	(大規模な対外遠征援助5百万まで積立完了)
小 計	57,800,000	
次 年 度 繰 越 金	26,795,257	
支 出 の 合 計	84,595,257	

●正課外教育援助費内訳

科 目	平成7年度予算	援 助 対 象
正課外教育援助費	27,700,000 (円)	
課外活動援助費	24,300,000	●「課外活動に対する補助制度」の費用ほか
(イ)学団連援助金	(12,000,000)	●学団連執行委員会、体育会・文化団体連合会各部、MIT祭実行委員会、吹奏楽団、放送会、新聞会
(ロ)一般援助金	(10,500,000)	●課外研究、対外活動、情報活動、環境向上活動、用具整備、特別企画、地域活動
(ハ)学生行事援助金	(1,800,000)	●体育祭、MIT祭、水泳大会、ソフトボール大会、公開企画、特別行事、Mi-Techテニストーナメント等
学 生 顕 彰 費	900,000	●ボランティア、課外活動奨励賞、課外研究、後援会長賞等
学 生 生 活 指 導 援 助 費	2,500,000	●ボランティア育成、リーダー教育、学生団体の顧問・技術指導者の合宿指導、留学生の交流指導、研修・見学指導

平成7年度 役員・評議員

役員 (敬称略)

会 長	飯 田 進 也	電子通信 (再)	理 事	横 山 良 一	経 営 (再)
副 会 長	伊 藤 泰 郎	原子力 (再)	理 事	菱 沼 紀 昭	機 械 (新)
副 会 長	黒 崎 浩	機 械 (新)	理 事	宇 野 信 義	電気電子 (新)
理 事	直 江 正 彦	電気電子 (再)	理 事	五 艘 章	土 木 (新)
理 事	豊 田 康 郎	建 築 (再)	会計監査	今 井 治	土 木 (再)
理 事	市 村 稔	機 械 (再)	会計監査	木 下 健 介	経 営 (再)
理 事	堂 本 雄 司	電子通信 (再)			
理 事	八 木 高 志	土 木 (再)			
理 事	永 田 博 司	経 営 (再)			
理 事	三 好 陽 二	機 械 (再)			

顧問 古 浜 庄 一 学長
顧問 星 野 重 夫 教授

評 議 員 (敬称略)

奥 村 隆 俊	静岡県 機 械 (再)	後 藤 正 昭	兵庫県 電気電子 (再)	加 藤 友 之	東京都 経 営 (再)
大 司 秀	東京都 機 械 (再)	安 波 政 弘	茨城県 電気電子 (再)	山 本 善 彦	東京都 経 営 (再)
木 滑 孝 一	新潟県 電 気 (再)	竹 内 哲 夫	高知県 電子通信 (再)	梅 原 二 郎	京都府 機 械 (新)
板 野 醇 一	神奈川県 経 営 (再)	福 井 健	東京都 電子通信 (再)	国 岡 克 匡	神奈川県 機 械 (新)
米 山 敏 夫	東京都 機 械 (再)	濱 田 恵 亮	宮崎県 建 築 (再)	池 田 外 余 光	神奈川県 機 械 (新)
穂 苅 弘 造	神奈川県 機 械 (再)	今 井 正 一	広島県 土 木 (再)	中 嶋 咲 海	静岡県 機 械 (新)
大 竹 進 一	北海道 電 気 (再)	小 林 伸 年	神奈川県 土 木 (再)	三 木 浩	徳島県 機 械 (新)
出 海 滋	東京都 電 気 (再)	奥 田 清 夫	沖縄県 経 営 (再)	鴨 川 隆 彦	福岡県 機 械 (新)
紫 村 誠 一	神奈川県 電 気 (再)	須 藤 彰	山形県 経 営 (再)	小 牧 明 彦	大阪府 機 械 (新)
秋 本 恭 伸	東京都 機 械 (再)	武 野 正 幸	東京都 機 械 (再)	谷 公 士	東京都 電気電子 (新)
家 里 直 明	新潟県 機 械 (再)	大 道 裕 宣	神奈川県 機 械 (再)	波 藤 雅 俊	東京都 電気電子 (新)
三 浦 義 昭	埼玉県 機 械 (再)	真 壁 敏 昭	神奈川県 機 械 (再)	高 橋 佑 太 郎	東京都 電気電子 (新)
笠 原 威	神奈川県 電気電子 (再)	山 下 浩 之	栃木県 電気電子 (再)	潮 恵 次	神奈川県 電子通信 (新)
加 地 誠 輔	愛知県 電気電子 (再)	安 田 善 次	愛知県 電気電子 (再)	野 中 千 城	山梨県 電子通信 (新)
近 藤 啓 介	静岡県 建 築 (再)	伊 藤 穆	兵庫県 電子通信 (再)	小 草 伸 春	島根県 建 築 (新)
田 口 尚 二	秋田県 建 築 (再)	島 森 義 光	埼玉県 電子通信 (再)	佐 川 保 博	福島県 土 木 (新)
羽 瀧 一 郎	東京都 経 営 (再)	平 柳 健	東京都 電子通信 (再)	谷 川 豊	広島県 土 木 (新)
仲 山 省 三	岡山県 経 営 (再)	久 保 内 操	高知県 建 築 (再)	林 春 子	東京都 土 木 (新)
中 田 敏 雄	石川県 経 営 (再)	曾 慶 健 一	群馬県 建 築 (再)	北 川 晴 一	岐阜県 経 営 (新)
代 永 衛	東京都 経 営 (再)	村 中 一 成	山口県 建 築 (再)	長 瀬 健	神奈川県 経 営 (新)
木 村 郷 美	神奈川県 機 械 (再)	小 原 眞 吾	東京都 土 木 (再)	山 本 専 一	福島県 経 営 (新)
伊 藤 英 雄	宮城県 機 械 (再)	工 藤 公 健	北海道 土 木 (再)	島 田 亜 雄	群馬県 経 営 (新)
岩 元 莞 二	神奈川県 電気電子 (再)	伊 藤 正 樹	神奈川県 経 営 (再)		

平成6年度「課外活動に対する補助制度」による援助

後援会の事業の一つに「課外活動に対する補助制度」があります。これは学生が自主的な財源確保の努力をしつつも補助を受けることにより、特色ある活動や、より高レベルの活動が可能となり、キャンパスライフの充実に貢献することを期待して設けられているものです。

■第1回分(平成6年6月15日)

No.	団 体 名	学生代表者名	顧問 名	活 動 の 内 容	補助金額(円)
1	学生団体連合会	中野 徹哉	星野 重夫	平成6年度学生団体連合会への援助金として	12,000,000
2	文化団体連合会	杉山 真也	土井 雅博	'94 Music Festivalの開催に対して(音楽5団体参加)	450,000
3	吹 奏 楽 団	永山 裕之	吉田 祐夫	第30回記念定期演奏会の開催	100,000
4	新 聞 会	庄司 公房	高田 達雄	システム増強の為に機器購入	80,000
5	航 空 研 究 会	菅沼 久大	稲村 二彦	第18回鳥人間コンテスト滑降機部門への出場に対して	550,000
6	マンドリンクラブ	信国 久興	高岡 京	文化女子大学とのジョイントコンサートの開催	50,000
7	鉄 道 研 究 部	黒木 礼則	佐藤 三祿	「電車とバスの博物館」においてNゲージ大運転会	70,000
8	特許アイデア研究部	高橋 惣治	浅見 克敏	目覚め頭脳「発明大作戦」(武蔵工大学生アイデアコンテスト)の開催	200,000
9	ウエスタンクラブ	小泉 次郎	斧 昭雄	ライブハウスにてジョイントコンサートを開催	30,000
10	モーターサイクル部	藤岡 啓介	岩崎 征人	関東ロードレース選手権第5戦東日本フレッシュマンロードレース出場	30,000
11	グ リ ー ク ラ ブ	春田 和城	井出 正男	合唱団カルラ第15回定期演奏会	30,000
12	演 劇 部	佐藤 裕樹	中添 淳	春期公演に対して(ジュルスホール)	50,000
13	囲 碁 部	井上 花江	加藤 満	対局時計の購入(4台)	40,000
14	体育会武道系団体	岡本 秀之	門馬 伯行	武道系団体のナイトラリー開催	170,000
15	ヨ ッ ト 部	神田 直樹	光井 英雄	ヨット試乗会の開催	130,000
16	山 岳 部	有水 久宗	橋本 正明	保険加入への援助	70,000
17	ハンドボール部	千野 保幸	浅野 鉦世	春季関東学生リーグ戦にて3部優勝、2部昇格に対して 東日本学生ハンドボール選手権大会への出場に対して	200,000 400,000
18	アメリカンフットボール部	太田 一平	杉山 好弘	第8回東西工業大学交流戦開催に対して	100,000
19	バスケットボール部	檜山 滋	小玉 克巳	関東学生トーナメント理工系リーグ1部優勝に対して	150,000
20	陸 上 競 技 部	仲村 学	広田 達衛	1995年ユニバーシアード福岡大会の運営に対する協力として	50,000
21	洋 弓 部	石井 康雄	安味 真正	世界フィールドアーチェリー選手権大会日本代表選考会出場に対して	60,000
22	機 親 会	西畑 浩憲 三村 真季 板垣 定範	杉山 好弘	1994年浜名湖ソーラー・人力ボート大会出場に対して 第6回全日本ロボット相撲大会への出場 ワールドソーラバイシクルレース in Akita に出場	100,000 50,000 100,000
23	電 気 研 究 会	金子 昌弘	光井 英雄	①自動制御ロボットハンド制作②糸電話の制作	100,000
24	通工会音響研究会	野嶋 幸治	今井 章久	M I T 祭に参加のため	30,000
	(体 育 会)	星 栄介	(門馬伯行)	第17回NHK杯全日本選抜カヌースラローム競技大会出場	20,000
	合 計	24団体			15,410,000

■第2回分(平成6年10月24日)

No.	団 体 名	学生代表者名	顧問 名	活 動 の 内 容	補助金額(円)
1	M I T 祭実行委員会	高橋 保昌	片田 敏行	第65回M I T 祭の行事企画について講演会(40)、研究室解放(16)、車・製作品展示(13)、花火(31)、風船(12)	1,120,000
2	鉄 道 研 究 部	黒木 礼則	佐藤 三祿	鉄道ファンの大文化祭に対して	70,000
3	演 劇 部	佐藤 裕樹	中添 淳	秋期公演に対して	50,000
4	写 真 部	池田 剛	野崎 喜嗣	学外写真展「六月場所」	30,000
5	マンドリンクラブ	信国 久興	高岡 京	全国マンドリン連盟コンサート及び第32回定期演奏会	50,000
6	グ リ ー ク ラ ブ	春田 和城	井出 正男	ブレザーの購入費の一部援助	40,000
7	モダンジャズ・パティエーゼン	佐々木 健	押川 恵一	Super Gimmick Special '94 関東甲信越大会出場に対して	50,000
8	モーターサイクル部	藤岡 啓介	岩崎 征人	1994クラブマンロードレース第5戦および関東ロードレース選手権シリーズの上位入賞	50,000
9	水素エンジン研究会	島村 和樹	山根 公高	M I T 祭への展示参加	20,000
10	落 語 研 究 部	武田 輝章	小林 光一	M I T 祭での落語会、柏寄席の開催	30,000
11	柔 道 部	植木 優	神山 光男	第35回全日本理工科学生柔道優勝大会において準優勝	200,000
12	空 手 道 部	岡本 秀之	佐藤 寛	全日本理工科系大会への出場	30,000
13	バスケットボール部	檜山 滋	小玉 克巳	大阪工大との定期戦および交流会に対して	50,000
14	水 泳 部	鳥居 伸彦	土井 雅博	在学生対象の水泳教室及び付属高校との親睦競技会	20,000

No.	団 体 名	学生代表者名	顧問 名	活 動 の 内 容	補助金額(円)
15	ス キ ー 部	宮内 隆	浅野 鉦世	全日本学生スキー選手権大会等への出場に対して	50,000
16	サイクリング同好会	橋本 淳	橋本 裕	ランドナータイムトライアルの大会主管校として	50,000
17	潜水科学研究会	横井 久長	土井 雅博	体験ダイビング教室の開催	30,000
18	天 文 研 究 会	植村 雅隆	片田 敏行	M I T 祭への出展(プラネタリウム製作)	50,000
19	ワンデリングスキー同好会	田熊 康秀	佐藤シヅ子	関東大学競技スキー上位入賞に対して	30,000
20	国際交流友の会	鈴木 洋	山西 龍郎	外国料理講習会およびM I T 祭での外国文化の紹介	100,000
21	機 親 会	西畑 浩憲	杉山 好弘	ホンダエコノパワー燃費競技大会出場に対して	200,000
	(体 育 会)	星 栄介	(門馬伯行)	日本カヌースラローム選手権大会及びワールド・カップ '94ファイナルカヌースラローム IN あいち旭町への参加に対して	75,000
22	武蔵工大みこし連	横井 久長	土井 雅博	玉川寺社祭礼への参加	40,000
	同 好 会	34団体	学生部長	同好会の活動奨励費として	680,000
	合 計	56団体			3,115,000

■第3回分(平成6年12月19日)

No.	団 体 名	学生代表者名	顧問 名	活 動 の 内 容	補助金額(円)
1	学生団体連合会	中野 徹哉	星野 重夫	トランシーバーの購入に対して	80,000
2	マンドリンクラブ	長谷川賢二	高岡 京	清泉女子大学とのジョイントコンサート開催に対して	50,000
3	グ リ ー ク ラ ブ	春田 和城	井出 正男	M J K トライアングルコンサート開催に対して	30,000
4	ウエスタンクラブ	小泉 次郎	斧 昭雄	中間発表会・ミュージックフェスティバル・M I T 祭での演奏活動に対して	30,000
5	鉄 道 研 究 部	長根 広和	佐藤 三祿	「スチールカー学祭号」の発行に対して	80,000
6	囲 碁 部	井上 花江	加藤 満	秋季関東リーグ戦においての3部昇格に対して	50,000
7	写 真 部	塩原 文博	野崎 喜嗣	M I T 祭における写真展開催および学食での写真展示	50,000
8	落 語 研 究 部	武田 輝章	小林 光一	新春落語会に対して	20,000
9	ワンダーフォーゲル部	加藤 修	安味 貞正	関東学生ワンダーフォーゲル連盟の事故対策リーダー講習会への参加に対して	50,000
10	準 硬 式 野 球 部	後藤 修二	安田 忠郎	オール関東大学選抜チーム九州親善野球大会出場に対して	40,000
11	洋 弓 部	古木 邦治	安味 貞正	全日本学生フィールドアーチェリー選手権大会および全日本フィールドアーチェリー選手権大会出場に対して	100,000
12	電 気 研 究 会	春田 一郎	光井 英雄	会の諸活動に対して	50,000
	合 計	12団体			630,000

■第4回分(平成7年2月16日)

No.	団 体 名	学生代表者名	顧問 名	活 動 の 内 容	補助金額(円)
1	学生団体連合会	松本 一朗	星野 重夫	ファイル整理のためのキャビネット等購入に対して	120,000
				活動用の機器としてパソコンの購入に対して	250,000
2	体 育 会 本 部	佐藤 友彦	門馬 伯行	本棚、机等購入に対して	100,000
				ビデオカメラ一式の購入に対して	280,000
3	M I T 祭実行委員会	鈴木 治	片田 敏行	活動用の機器としてパソコンの購入に対して	250,000
4	吹 奏 楽 団	川畑健太郎	吉田 祐夫	楽器購入に対して	300,000
5	放 送 会	草野 憲昭	今井 章久	活動用の機器としてパソコンの購入に対して	250,000
6	新 聞 会	庄司 公房	高田 達雄	取材用のオートズームカメラの購入に対して	50,000
7	写 真 部	塩原 文博	野崎 喜嗣	四大合同展と芝浦工大の合同撮影会への参加に対して	20,000
8	グ リ ー ク ラ ブ	春田 和城	井出 正男	第35回記念定期演奏会に対して	40,000
9	ウエスタンクラブ	小泉 次郎	斧 昭雄	定期演奏会等に対して	30,000
10	ワンダーフォーゲル部	加藤 修	安味 貞正	医療講習会参加に対して	90,000
11	M I T 連 盟	大久保俊介	門馬 伯行	MIT OPENテニス大会に対して	100,000
12	如学会建築3研究会	魚谷 佳史	鈴木 一	平成6年度卒業設計展示会に対して	200,000
13	機 械 工 作 研 究 室	本莊 隆一	土井 雅博	「新春恒例 機械工作研究室特別企画玉堤カップ'95」に対して	40,000
	合 計	13団体			2,120,000

Campus Topics "キャンパストピックス"

音楽の祭典、'95ミュージックフェスティバル

本学の音楽系クラブが結集しての年に一度の音楽の祭典「'95ミュージックフェスティバル」が6月21日(水)開催されました。今年で4年目を迎えるこの「ミュージックフェスティバル」は、年々盛り上がりを見せ、今回は参加団体も昨年より増えて8団体による発表になりました。

主催の文化団体連合会の役員や参加者は総出で朝から準備を行い、午後3時、いよいよ開会式そして演奏スタート。吹奏楽、合唱、マンドリンそして様々なジャンルのバンド演奏とバラエティ豊かな内容です。



中添学生部長、市川文団連顧問をはじめとする先生方や学生などの観客を前に、やや緊張ぎみだった各メンバーも曲が進むうちに、いつもの調子を取り戻し、堂々と音楽で自分を表現していました。観客の各クラブ員も顔みしりの間柄とはいえ、こうやって演奏を聴く機会もありないよう、お互い興味深げにききいっている姿が印象的でした。

普段は仲間、ここではライバル…。友情を深め、なおかつ刺激し合って有意義なものとなりました。勉学の合間を縫っての行事なだけに、主催者、参加者の苦労も大変でしたでしょうが、その分、終了後の打ち上げのビールは格別だったことでしょう。

新たな交流、留学生研修旅行

梅雨の晴れ間となった6月10日(土)から11日、留学生研修旅行が後援会の援助を得て行われました。この旅行は毎年春、留学生同志また、日本人学生や教職員との交流を深めたり、日本文化に親しむ等の目的で行われているもので、

今年は箱根方面へ1泊2日のバス旅行です。参加者は、外国人留学生(研究生含む)19名中13名と一般学生9名、教職員7名の合計29名です。



1日目は、「留学生と地域社会との交流」をテーマとしてビデオを見たり、全員で、留学生交流の在り方や、留学生生活の問題点等の課題でレポートを作成したりしました。また、研修後のボウリング大会や懇親会では大いに盛り上がりました。2日目は、芦ノ湖観光船、大涌谷、神奈川県立「生命の星、地球博物館」などの観光と見学を行い全ての行程を無事終了。

2日間の研修旅行を通して、留学生は、新しい友人ができたり、一般学生や教職員と身近に接することによって、大きな刺激を受けたようです。このように、それぞれの交流を深めることにより、それによって得たネットワークを広げ、これからの留学生生活が少しでも、円滑に進むよう願っています。



初の試み、リーダース研修会

去る平成6年12月21～23日、富士箱根ランドにてリーダース研修会が行われました。これは、従来学生団体連合会が主催していた2月のリーダースキャンプが、本学の入試日程変更により実行不可能となったため、これを機に大学学生部主催に改め、企画の内容を見直し、リーダー教育の更なる実効の向上を狙って実施されたものです。なお、この研修会には後援会からも費用の一部が援助されています。

学園連加盟団体、同好会、学科研究会および教職員の総勢

約200名は、特別講演（講師 筑波大サッカー部監督：松本光弘氏）を皮切りに、本校校医の飲酒問題や救急処置法、学生部委員の先生方による事故対策や会計処理、学生課職員による課外活動を行う上での諸手続などの講義や説明を受けた他、16班に別れてのグループディスカッションとその報告会、バレーボール大会および懇親会と盛り沢山のメニューを消化しました。

忙しいスケジュールだったものの、その後のアンケートでは、今後とも「ぜひ必要な研修」という回答が大多数を占め、学生にとって有意義な研修で終わりました。



後援会が学生団体へ視聴覚映像機器を寄贈

本年4月、学生団体の上部統括団体（学生団体連合会・文化団体連合会・体育会本部）へ要望の視聴覚映像機器一式（液晶ワイド投影機器、高輝度型ビデオカメラ等）が後援会から寄贈されました。

従来各団体のイベント等の活動記録は写真が中心であり、動的映像の記録が強く望まれていましたが、今回のこれらの寄贈によりビデオ映像として記録保存が可能となり、



今後、各学生団体の多様な利用の需要が見込まれそうです。特に体育会系団体では、リーグ戦などの対外試合のビデオ撮影により戦略の研究にも活用できるようになりました。学生団体の上部統括団体では、これらの機器を下部の各クラブ団体が積極的に利用できるよう利用規則を規定し、貸し出し業務を開始しています。



後援会緊急奨学金

平成6年度より施行された後援会緊急奨学金制度の規定が、一部（第9条）改訂となりましたので、以下改訂部の掲載します。

旧改訂前条文

（選考の順序）

第9条 選考の順序は次によるものとする。

イ、申請者に貸与継続者がいる場合は優先して採用するものとする。

ロ、申請者の中から奨学金の必要度の高い学生から採用する。



新改訂後条文

（選考の順序）

第9条 奨学生の選考順序は、申請者の中で奨学金の必要度の高い学生から採用とする。

なお、去る7月5日に行われた選考委員会において、慎重審議を行った結果、次の4名が奨学生として採用されました。

機械2年 杉山太一 機械3年 石川路也
電気4年 鎌田和佳江 修士課程1年 森花朋弘
（いづれも授業料の半額貸与）

事務局だより

この4月より学生部長をお引き受け致すことになり、5月の評議員会後、星野前学生部長から引き継いで事務局を務めさせて頂く事になりました。前学生部長の築いて下さった基盤を踏襲して、かつ教職員等の皆様方のご指導、ご鞭撻を得ながら会員の皆様方のご意向に添うよう会務を執行させて頂きたいと考えております。

学生達にとっては、大学生活において優れた環境を保ち、課外活動の場においては、出来るだけ多くの教職員、他学科の学生との交流を持ち、クラブ活動を通じて自己啓発されるよう願っており、これらの活動へのアドバイスと支援が必要となります。お蔭様にて後援会からのご援助により学生のクラブ活動は年々活発化しており、人格形成に役に立つ側面的教育効果を大いに上げつつあります。今後とも、一層のご支援をお願い申し上げます。



事務局担当 学生部長
中添 淳

今回ご紹介するのは、大海原を舞台に、夢とロマンを追い求めて積極的な活動をしているヨット部と、カメラという表現手段を通して、クリエイティブなセンスを磨き続けている写真部です。

【ヨット部】

冒険心をくすぐる大海原へのチャレンジ

全長27フィート、18馬力のディーゼル・エンジンを搭載する『アランフェス3世号』を駆って、太平洋の大海原へ乗り出していくヨット部。毎週、水・金に陸上トレーニング、土・日に1泊2日の海上練習と、工学部の学生にとってはかなりハードな活動スケジュールをこなしていますが、陽に焼けた部員たちの顔はいずれもイキイキと輝いています。それだけ彼らは、このヨット部で充実した時間を過ごしているのでしょう。

●ロマンを追い求める部員たち

今年ヨット部には3人の新入部員が入ってきました。小松傑君（機械1年）、中山竜太郎君（電気1年）、和田浩志君（経営1年）の3人です。「入学する前に大学のパンフレットを見た時点から、ヨット部に入部することを決めてました。大学で勉強以外に打ち込めるものをひとつ作りたと思っていましたし、何よりも海が好きだったから……。臭い言い方ですが、自分の青春を賭けるのにぴったりのスポーツだと感じたんです」と、入部の動機を語る小松君。他の2人も「だらだらと大学生活を送りたくなかったから」（和田君）、「先輩たちの顔が、男のなかの男、といった感じに見えたんです。それで自分もこんな顔になれたらと思って」



▲味噌汁作りの名人、艇上作業は安全第一の小松君



▲なぜか海賊かぶりのタオルがよく似合う和田君

（中山君）と、同じように“熱い気持ち”で入部を決めたそうです。

実際ヨット部には「ロマンチストばかり」と中山君が評するように、海とヨットに夢を託す、いまどきの若者には少々珍しい（？）タイプが揃っています。たとえば大谷



▲桑原君の夢はヨットで世界一周

一郎君（機械2年）は『ダブ号の冒険』という小説を子供の頃に読んで以来、いつかヨットで大冒険する、というのが夢なんです」と言いますし、桑原要君（機械3年）も「僕も子供の頃から世界一周をするという大きな夢を持っていたし、その夢に一步でも近付くために、それまで所属していた体育会のクラブをやめて2年生から入部しました。今も、大学を卒業してしばらくしたら中古でヨットを買って、夫婦で大航海に出掛けようと本気で考えています」と語ります。

こんな大きな夢を抱えた若者ばかりが揃っているヨット部の雰囲気について、主将の神田直樹君（建築4年）は次のように語ります。

「とにかくハンパじゃなく元気がいい。これはヨットというスポーツに取り組んでいるおかげでもあるでしょう。というのも、海の上では“安全”が大前提。そのためにいちばん必要なのは艇員たち

▼気はやさしくて、力持ち、海の若大将 井村貴典（土木4年）





▲ヨット部の軽業師、山崎正弘君(土木4年)

の元気の良さなんです。たとえば航海中は、360度見回しても海しか見えないなんてことになります。こんなときみんなが黙りこんでいたら、ひどく孤独な気分になってしまう。これは危険です。だから艇の上では部員一同、常に元気いっぱいであることを心がけているんですが、それが艇を降りても習慣として身についてしまってるようです。もちろん、もともと明るい性格のヤツばかりが集まっているということもあるんでしょうが」

鍛えぬかれたたくましい身体に備わった、底抜けに明るい性格……。まさに海の男と呼ぶにふさわしいキャラクターがヨット部には集まっているのです。

●毎週行なう合宿が、鉄のチームワークを作る

毎週土曜日になると、泊まりがけの練習に出掛けているヨット部。神奈川県油壺に12人乗りのクルーザー『アランフェス3世号』が、江ノ島にはクルーザー練習用のディンギー(小型ヨット)がそれぞれ停泊しており、日中は2班に別れてトレーニングを行なうそうです。



▲門脇君は、ヨット部きっての理論派

「練習は正直言ってキツイです。最初のうちは船酔いにも悩まされましたし……。でも、夜が楽しい。昼間は厳しかった先輩が、うって変わって楽しくオモシロイ先輩に豹変するし(笑)」と語る門脇亮君(機械2年)。彼が楽しいと言う夜は、部員



▲一見貴公子? 酒が入ったら大虎に変身する中山君

全員で停泊した『アランフェス三世号』に泊まることを指しています。毎回食事のあとは楽しい宴会へと突入するようで、同じヨットハーバーに停泊中の他の大学のヨット部員たちと合同で盛り上がることもしばしばあるとか。ちなみに宿泊するときに食事の準備を担当するのは1年生の仕事で、「得意料理ですか? そうですね横文字のメニューなんかも作りますよ。たとえばライスとか(笑)」(中山君)と冗談でこまかす1年生部員に対して、先輩たちによれば「なかなかいける」とのことでした。

この、寝食を共にする1泊2日の合宿が、ヨット部には欠かせないチームワークをさらに強固なものにしているのは間違いのないようです。



▲我がARANJUEZ III号。出航準備完了

●感動がいっぱいのクルージング

ヨット部の年間スケジュールは、4月の新入生勧誘を兼ねた「試乗会」を皮切りに、「夏クルージング」、「全日本学生外洋帆走連盟主催のレース」、「秋のクルージング」、「初日の出クルージング」……と大きなイベントがぎっしりと詰まっています。中でもいちばんの目玉となるイベントは、「夏クルージング」で、去年は10日間の日程で八丈島まで出掛けました。大学のヨット部の中でこれほど遠くまでクルージングに出掛けるところは珍しいとか。このようなことができるのも、春・夏の合宿で各部員のクルーワークが完成しているからこそ。



▲全員の安全を守る頼れる海将、神田君

とはいえ、「夏クルージングは長い航海になりますから、いい意味での緊張感を持続させるのが最重要課題となってきます。もちろん、どんなに風いだ海でも、油断は禁物。とくに1年生はまだ慣れていない部分もありますから、我々上級生は常に下級生に気を配らないと」（神田君）

その分下級生には、『クルー5カ条』というルールがあり、内容は「一、艇の上では封建性」「一、艇の上では勝手な自己判断をしない」「一、命令即実行」「一、艇の上では行動は迅速に」「一、まわりの状況は逐一艇長に報告」というもの。見方によっては厳しすぎるルールにもとれますが、「油断が即事故につながってしまう海の上だけに、これくらいの厳しさがあってちょうどいいんです」と神田君。部の中でムーディーメーカー的な役割を果しているという門脇君も次のように言います。「艇の上では上級生から下級生



▲船酔いの経験ゼロの犬谷君

へと確固たる命令系統が存在していますが、だからといってそれを煙たがる部員は一人もいません。むしろそれがあからこそ、ヨット部はひとつにまとまることができ、ヨットが安全に走行できるんだと思います。」

クルージングの最大の魅力は、自然との出会い、と口々に語る部員たち。ときには愛らしいイルカたちが、艇の横を伴走してくれることもあるそうです。「水平線に沈んでいくドデカイ夕日も感動的ですが、僕がいちばん気に入ってるのは、夜空。まさに天然のプロネタリウムといった感じなんです。だって頭上だけでなく、真正面にも真横にもきれいな星が輝いているんですから。あれは絶対に一見の価値があります」（大谷君）

4年間の大学生活で、とっておきの思い出を作りたいと考える学生たちにとって、ヨット部はまさに最高のステージとなっているのです。



▲全員気合を入れて、めざすは大平洋！

※今回、ヨット部の取材に関して、写真部 黒川尚重君（機械3年）の協力を得ました。

フィルムに焼き付けたい。私たちの感性

風景や人物などがふとした瞬間に見せるとっておきの“表現”を、ファインダーの中に切り取ることができるカメラ。まさに何かを表現したいという者にとっては、絶好の道具といえるでしょう。そしてここ武蔵工大写真部には、そんなカメラの魅力に惹かれた学生たちが集まっています。

●前期最大のイベント、『六月場所』

取材に訪れたときの写真部は、『六月場所』と呼ばれる写真展を二週間後に控えていました。今回の展示会場は高田馬場のギャラリー。その準備に追われ、部員一同さぞかし忙しくしているだろうと思いきや……。

「それほど忙しいわけではないんですよ。基本的には部員それぞれが撮り貯めていた写真の中からこの作品展に出品するものを選ぶ、という感じになっています

作品の搬入や会場の準備などで多少ドタバタはしますが、この作品展のためにみんなで集まって撮影会をしたりはしません。」

と語るのは部長の塩原丈博君(通信3年)。それほど忙しくはないとはいえ、『六月場所』は、写真部の年間スケジュールの中で、MIT祭で行なわれる『学内写真展』と同じくらいの比重を持った大きなイベントです。だからこそ中には、撮り貯めた写真ではなく、黒川尚重君(機械3年)のように、“撮りおろし”の作で臨む部員もいるようです。「実を言うとまだ撮影していないんです。撮りたいテーマは決まっていますが、その表現方法がなかなか見つからなくて。そろそろみんなの目が恐くなってきたの



▲素朴で静かな人、でも存在感100%の塩原君



▲写真展「95六月場所」のポストカード

で(笑)、かなり焦っています」(黒川君)

武蔵工大写真部では、より多くの人たちに来場してもらいたいとの考えから、『六月場所』や『学内写真展』などの作品展の前には、展示作品のうちの1枚を使って、毎回その旨を告知するためのポストカードを作成しています。ポストカードに採用される作品は、部員全員の多数決により決まるそう。ちなみに今年の『六月場所』の前に配布を予定しているポストカードは250枚、採用された作品は柴田和孝君(機械1年)の撮影によるものでした。1年生でありながら、その作品がポストカードに大抜擢されたことについて、柴田君はどのように感じているのでしょうか。



▲やる時はやる元気人の入間野君

「まさか自分の作品がポストカードになるとは思っていなかったので、不思議な気持ちです。それに選ばれた作品は自分ではあまり気に入っていないものだったんです。むしろ他の作品のほうを気に入ってました。こんなところからも、写真の奥深さを感じます。だから今度の作品展では、自分の作品をギャラリーの方々がどのように観てくださるのか、とても興味があります。もちろんちょっぴり不安も感じますが」

他の1年生部員たちも、初の作品展を前にして、期待と不安が入り交じった心境というのが本音のようです。「武蔵工大の写真部は、写真の仕上げの良さに定評があると聞いています。作品展にはOBの方や他の大学の写真部の方も数多くいらっしゃるようですから、恥ずかしくないように仕上げをしないと。やっぱり緊張しますね」(入間野秀孝君・電気1年)。

●個人のセンスを伸ばすためにも 基礎をしっかりと指導

武蔵工大写真部は、毎週水曜日の午後15時に定例会を開いています。

部員による「誌上写真展」



「消火訓練」花村大志



「サクラ」塩原文博



「風の道」川西温子



「19」柴田和孝

「普段の定例会は1時頃に集まって、1時間くらいしたら解散、というパターンです。あまり活発に活動していないように思えるかもしれませんが、もともと写真を撮るという作業は個人的なものですから……」(花村大志君・電気2年)



▲次期部長の声がある花村君

とはいえ、まったくの初心者には、上級生がついて写真撮影のノウハウを一から指導しています。たとえば、部室に併設された暗室で現像や紙焼きの仕方、学外での撮影会では、構図のとり方や、基本的な撮影テクニックなどについて懇切丁寧に教えてくれるそうです。

またOBもしばしば部室を訪れ、後輩たちの作品についての的確なアドバイスを与えてくれるとか。「1年生の頃、あるOBの方から“おまえの作品にはテーマがない。撮るべきテーマを作れ。伝えたいものを撮れ”なんて言われたことを覚えています。あれ以来、自分の作品はいい意味で変わることができたような気がします」(黒川君)



▲変な時間帯に妙な所に現れる黒川君

個人個人の技術やセンスがものをいう分野とは言いながらも、撮影の基本や心構えについては、上級生から下級生へ、あるいはOBから在学生へ、しっかり伝えていくというのが武蔵工大写真部の特徴のようです。

さてさてこんな写真部の雰囲気について、1年生の部員たちはどのように見ているのでしょうか。「あれをしろ、これをしろと押しつけるところがまったくないから気楽です。それでいて先輩たちは、質問すれば必ずきちんと答えてくれる。純粋に写真に没頭するには、またとない環境だと思います」(高島大君・電気1年)。「とにかくアットホーム。開部以来、私が初めての女性部員ということですが、全然窮屈な感じがしません。だからつつい部室に長居しちゃって(笑)」(川西温子さん・電気1年)



▲写真は撮るが、撮られるのが大嫌いの川西さん

●素朴な題材に真正面から取り組む

最後に武蔵工大写真部の部員たちがそれぞれ取り組んでいる写真ジャンルについて、ちょっと紹介してみましょう。



「月の雫」黒川尚重



「都市の守護者」入間野秀孝



「あるひととき」黒川尚重



「故郷～5月～」塩原文博

「実家が長野なんです。だからかもしれませんが、山々や田園の風景に強く魅かれるんです。当然、帰省するたびに撮り貯めています」

(塩原君)。「特に決めてません。あえて言えば祭りかな。あの熱気が好きなんです。近くで祭りがあると聞けば、飛んでいって、シャッターを切ってます」(花村君)「最近



▲隠れた実力派、目下充電中の柴田君

はそうでもないけど、最初は川の写真に凝ってました。季節によって、天候によって、いろんな表情を見せる川に魅せられてしまったんですね」(黒川君)。「僕はもっぱら建造物を被写体に選んでいます。都会のビル群なんかいいですね。いろんな角度、いろんな場所から攻めています」(入間野君)。「ほとんど天体写真が中心。だれでも撮ることができる写真ですが、それだけに奥が深いんですよ」(柴



▲タレント性抜群の高島君

田君)。「撮りたいものはたくさんあるんですが、今のところは風景写真が中心。ただ、モノクロ写真ばかり撮ってきたので、今後はカラー写真にも挑戦したいです」(川西さん)。「東京の街

並と、そこで働く人々の表情をリアルにとらえたいと思ってます」(高島君)。……といった具合に、それぞれ取り組んでいるジャンルは微妙に異なりますが、奇をてらわず、素朴な題材に真正面から取り組んでいるという点では、みんな同じようです。そしてこの部分こそ武蔵工大写真部の特色なのかもしれません。「芸術性ウンヌンではなく、純粹に自分自身が感動した瞬間を写真に納めればいいんじゃないでしょうか。そしてそのためにいちばん重要なのは、カメラについての知識やテクニックなんかじゃなく、やっぱり感性だと思うんです。これは僕個人の意見ではなく、部員共通の意見。だから今までカメラを触ったことがない人でも、やる気さえあれば大歓迎します。かくいう僕も大学に入ってからカメラを始めた口ですから」(塩原君)

レンズを付け替えるとき、あわてて落としてしまった。現像時間を間違えてフィルムをダメにした。最高の写真だと思っていたのに、日付が入ってた。夢中になってファインダーを覗いてたら、川に落ちた……などなど、星の数ほどあるという失敗にもめげず、積極的に創作活動を続ける部員たち。自分だけの表現方法を見付けることに、あるいは、とっておきのシャッターチャンスを見付けることに、彼らは青春を賭けているのです。

平成7年度「大学と父母との連絡会」のお知らせ

全国26ヶ所で開催

後援会と大学の共催により平成7年度「大学と父母との連絡会」を下記の26会場で開催します。大学側から教職員の方が出席され、教育方針や現況等について説明していただくと共に、在学する子弟の修学および学生生活上の諸問題について懇談することを目的としております。奮ってご出席ください。

●平成7年度「大学と父母との連絡会」日程および会場

開催地	開催日	開催時間	会場と所在地（電話番号）	備 考
函館市	9月9日(土)	10:30～13:00	ホテルリッチ函館 函館市松風町16-18 (0138-26-2561)	食事会方式となりますので当日、食事代として1500円を徴収させていただきます
札幌市	9月10日(日)	10:30～13:00	札幌ステーションホテル 札幌市北区北七条西4-2-2(011-727-2111)	食事会方式となりますので当日、食事代として1500円を徴収させていただきます
秋田市	9月9日(土)	10:00～13:00	アキタスカイホテル 秋田市大町2-2-3 (0188-62-0501)	
仙台市	9月10日(日)	10:00～13:00	仙台東急ホテル 仙台市青葉区一番町2-9-25(022-262-2411)	
郡山市	9月10日(日)	10:30～13:30	郡山ワシントンホテル(ワシントンルーム1、II) 郡山市大町1-3-3 (0249-23-1311)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
宇都宮市	9月9日(土)	10:30～13:30	関東チサンホテル宇都宮(いちょうの間) 宇都宮市駅前通り3-2-3 (0286-34-4311)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
水戸市	9月8日(金)	10:30～13:30	三の丸ホテル(かわせみの間) 水戸市三ノ丸2-1-1 (0292-21-3011)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
東京都	9月30日(土)	11:00～15:30	武蔵工業大学 東京都世田谷区玉堤1-28-1	
高崎市	9月2日(土)	10:00～12:00	高崎ターミナルホテル 高崎市八島町222 (0273-25-3311)	
新潟市	9月3日(日)	10:00～12:00	ホテルイタリア軒(5階 朝日の間) 新潟市西堀通7番町1574 (025-224-5111)	
松本市	9月3日(日)	10:00～12:00	松本東急イン(皐月の間) 松本市深志1-3-21 (0263-36-0109)	
甲府市	9月2日(土)	10:00～12:00	第一イン甲府(心寿の間) 甲府市相生2-3-16 (0552-33-3011)	
富山市	9月2日(土)	11:00～13:30	富山エクセルホテル東急(15階 会議室) 富山市新富町1-2-3 (0764-41-0109)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
金沢市	9月3日(日)	11:00～13:30	金沢東急ホテル(松風の間) 金沢市香林坊2-1-1 (0762-31-2411)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
静岡市	9月2日(土)	午前の部 9:30～12:00 午後の部 13:30～16:00	ホテルアソシア静岡ターミナル(ゆりの間) 静岡市黒金町56 (054-254-4141)	
浜松市	9月3日(日)	9:30～12:00	マルコーイン・浜松 浜松市砂山町324-15 (053-457-0505)	
名古屋	8月26日(土)	10:00～12:30	名古屋東急ホテル 名古屋市中区栄4-6-8 (052-251-2411)	
大阪市	8月27日(日)	10:00～12:00	三井アーバンホテル大阪 大阪市北区豊崎3-18-8 (06-374-1111)	
岡山市	8月25日(金)	10:00～13:00	岡山東急ホテル(3階 旭の間) 岡山市大供3-2-18 (086-233-2411)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
広島市	8月26日(土)	10:00～13:00	三井ガーデンホテル(3階 白鷗西の間) 広島市中区中町9-12 (082-240-1131)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
小都市	8月27日(日)	10:00～13:00	山口グランドホテル(3階 パール) 山口県吉敷郡小郡町黄金町1-1(08397-2-7777)	食事会方式となりますので当日、食事代として2000円を徴収させていただきます
松山市	8月27日(日)	11:00～13:30	松山全日空ホテル 松山市一番町3-2-1 (0899-33-5511)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
高知市	8月26日(土)	11:00～13:30	高知ワシントンホテル 高知市追手筋1-8-25 (0888-23-6111)	食事会方式となりますので当日、食事代として2500円を徴収させていただきます
福岡市	8月27日(日)	10:00～12:00	ホテルステーションプラザ 福岡市博多区博多駅前2-1(092-431-1211)	
別府市	8月26日(土)	10:00～12:00	日伯ホテル 別府市北浜3-12-26 (0977-23-2291)	
那覇市	7月16日(日)	11:00～15:30	那覇東急ホテル(11階 海の間) 那覇市天久1002 (098-868-2151)	食事会方式となりますので当日、食事代として1500円を徴収させていただきます